

指定校番号	29035	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	中学校用
-------	-------	------	-------	---	------	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	左田和幸	生徒指導主事	岡真吾
-----	------------	----	------	--------	-----

**取組事例名 『生徒の主体的な活動を通し自己指導能力を育成する特別活動』****取組のねらい『キーワード 生徒会活動を通した主体的な活動』**

○行事等において、1年間を通して縦割り活動を取り入れ、生徒自らが企画、運営に携わることで、生徒の主体性を高めるとともに学校等への所属感や仲間同士の連帯感を育む。また、活動後等に、異年齢集団の中でお互いのよさを認め合う活動を仕組むことで、生徒同士のより好ましい人間関係を構築する。

**身に付させたい資質・能力**

- 主体性
- 学校、学年、学級への所属感や連帯感
- 自己指導能力の向上

**取組の具体的内容『キーワード 生徒会を中心とした縦割り活動』**

○生徒会を中心とした縦割り活動

- ・各団にわかれ1年間の目標、スローガンを決定させ、結団式で発表させた。
- ・新入生歓迎遠足を実施した。

今年度から、生徒会執行部を中心に3年生が遠足の計画を考え、実施することで学級や学年を超えた生徒相互の交流を図ることができた。

生徒会中心のレクリエーションでは、全生徒、全教職員が一緒に取り組んだことで、学校全体の連帯感が高まり、より好ましい人間関係を深めることにつながった。



(遠足スタート)



(生徒会レクリエーション)



(3年を中心に各団の校歌練習)

- ・体育大会や文化祭でも縦割り活動を取り入れた。

体育大会での縦割り活動は3年目を迎え、生徒自らが主体的に取り組む姿が伝統になってきた。

特に今年の全校ダンスは、男女関係なく参加した生徒全員が笑顔で踊ることができた。3年生を中心としたリーダーの取組や声掛けが、とても良い雰囲気を作り出した。

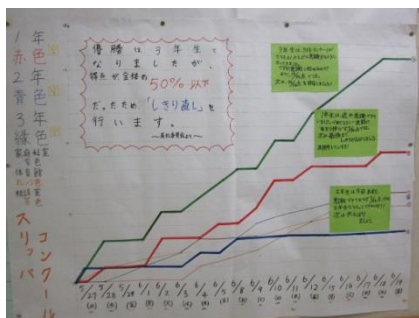


## 取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーの育成』

- 各取組を教員主体から生徒主体へ変更していくために、リーダーの育成が不可欠だった。生徒会執行部を中心とした3年生のリーダーや各学級にいるリーダー自らが取組を計画し、実施していく流れを作った。また、小グループでも進んで取組ができるようにミドルリーダーの育成にも力を入れた。
- 生徒会執行部については、週1回給食の時間を生徒会ミーティングとして取組の計画や反省を行なった。その都度、教員が学校のリーダーとして必要な資質能力について話をした。その結果、生徒会執行部のアイデアにより、行事だけではなく委員会活動にも縦割り活動を取り入れるなどして委員会活動が活性化した。
- 課題としては、各委員会などで取組を行ったが、その結果や反省がその後に活かされていないことがあった。また、評価をしていくうえで、どう状況が改善されてどのように良くなっていったかが評価しにくいものもあった。



(生徒会リーダー研修)



(各委員会の縦割り活動)



## 取組の成果(効果)『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 1年を通して縦割り活動に取り組んできたことで、生徒間の信頼関係も深まり、学校への所属感や連帯感も高まったことが生徒の姿やアンケートから見てとれた。
- 生徒意識アンケートでも、『学校行事・生徒会行事に満足している』という項目に対し、肯定的な回答が91.5%と初めて90%を超える満足度となった。
- 生徒自らが行事等を企画、運営していくことで、ルールを守ろうとする生徒が増え、生徒間で注意しあう姿が見られた。また、行事後には多くの生徒が「自分たちでやりきった」という達成感を味わうことができた。

## 今後の展開『キーワード 中央中伝統の深化』

- 生徒会執行部を中心に、活動を主体的に進められるようになってきた。しかし、現状に満足することなく各行事や取組を充実させるとともに、学校への所属感を深め、よりよい校風の確立と学校の伝統の継承、発展を今後も目指していく。特に、委員会活動では各リーダーが課題解決のために取組を実践しているが、改善や効果が不十分な取組もあることから、今年以上に深まるように取り組んでいく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 教職員の情報の共有と行動の一元化』

- どんな取組を行なっていくにも、教職員の共通認識と行動の一元化が重要である。年間を通して行なう取組では、年に3回から4回は研修の時間をとり、生徒・教職員間で繰り返して確認することが必要である。